

輪

四年 画数 15
筆順 巨車輪輪
オンリン
ワ

成り立ち



竹筒(竹のふだ。紙のない昔はこれに字を書き、皮ひもでつないで巻物にしました)を「順序よく並べる」ことを表した「輪」と、「車」とを組み合わせて作った字です。一まいの円い板で作った車の「わ」を「軽」と言うのに対して、「わ」の中心から放射状に順序よく並べられた「棒(輻)」「でささえられた「わ」のことを「輪」と言っただのです。

今では、輻のあるしにかかわらず「わ」は「輪」という字で表します。【例】車輪、三輪車。

「輪の形をしたもの」「物のまわり」の意味に使います。

【例】年輪、日輪、指輪、輪郭、外輪山。

また、「順番」とか「回る」意味に使います。【例】輪番、輪作、輪唱。

使い方

▽飛行機から降りると、花輪を一人一人私たちの首にかけてかんげいしてくれました。

▽私はビーズを買って来て、糸を通して、指輪や腕輪を作って友だちにプレゼントしました。

熟語例

▽車輪(車の輪。輪が「車のわ」ですが、今は円い形をした物は皆「輪」と言うようになったので、「車輪」と言わなければ通じなくなりました。)

▽日輪(お日さま。日だけでは物足りない感じなので、「輪の形をした「日」という意味で「輪」を加えたものです。)

▽輪郭(郭は外囲い。「輪の外回り」という意味のことですが、輪に限らず、「物の周囲」という意味。また、「物の形」「外形」という意味)

▽輪番(「順番」と同じ。順序をきめて番に当たること。終わりまで来ると初めにもどるので「輪番」と言います。)

▽輪読(一つの書物を輪番に読んで話し合いをすること。輪読会)

類

四年 画数 18
筆順 ゴヤ米 米類
オン
ルイ

成り立ち



「米」と「犬」と、顔の形を表した「頁」とを組み合わせて作った字ですが、今は「犬」の「犮」がはぶかれて、「大」になっています。

米つぶも犬も、よくにている、皆、同じように見えません。そのように「よく似た顔」という意味を表した字です。今は、顔にかんけいなく、「よく似たもの」「なにかま」という意味に使われています。【例】人類、類型、同類、類別、人類。

「たぐい」という意味から「たぐえる(くらべる)」という意味にも使われます。【例】類推、比類。

使い方

▽イルカは海にすんでいて魚のなかまのように見えますが、動物学の分類では哺乳類と言って、猿や犬のなかまです。

▽採集した昆虫を種類ごとに分類して整理しました。

熟語例

▽同類(同じなかま。【例】ゴリラとチンパンジーは同類です。)

▽分類(種類ごとに分ける。同類のものごとを集めていくつかのまとまりを作ること。)

▽種類(一つの種から生まれたなかま)という意味のことは、「ある基準により、同類とみとめられた物のなにかま」のこと。)

▽哺乳類(子どもを生んで乳で育てる動物のなかま。人類もこのなかまで、生物の中で一番進歩している動物のなかまです。)

▽類推(すでに知っている事を土台にあれこれと比べ合わせて、こうではないかと推理すること。)

▽比類(比べること。【例】これは比類の無い大事業です。)